

Assumption

聖母被昇天學院 學院報

No.13
2011/06/10

Kindergarten
Primary School
Junior & Senior High School



園長・校長 新年度のご挨拶

The teacher's greeting



2011年度がスタートし、早2ヵ月。幼稚園、小学校、中学校高等学校ともに、文科省の新学習指導要領に合わせた改革を始めています。そこで園長先生や各校長先生方に今後の取り組みについてお話をうかがいました。

幼稚園



幼稚園・園長 西尾千鶴代

わくわくドキドキ
「今日も一日楽しかった!」

今の時代、「何ができるようになったか」が一番の関心事となりがちですが、それよりも「子ども達が一日のうち、どれだけ笑顔で過ごせたか」という事を大事にしながら、子どもたちのよさや内なる可能性を導きだし、豊かな感性を育てていきたいと考えています。

今年度のキーワードは子育て支援、未就園児とその保護者を対象に週1回「プレ・スクール」を開園したり、「みんなであそぼう」と題し、歌を歌ったり、お遊戯をしたりして幼稚園生活を体験していただいています。

一方、今年度より子育て支援の一環として、仕事を持つお母様方(規定の条件として、就労証明書提出)へのサポートも始まりました。また、課外活動の充実に向けて、月曜日のスイミング・木曜日のE.T.M(えいご遊び)が新設され、その他の曜日も専門の先生をお招きし、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育にも積極的に取り組んでいます。

いつも、保護者と教職員が共に園児一人ひとりの成長を喜び、共感しながら、強い絆を築いていきたいと思っています。

小学校



小学校・校長 坂本清美

全学年、言語力を高め
知識の習得と活用をめざす

本校が今、力を入れているのは言語力を高め、コミュニケーション能力を育成することです。そのためにも読書で語彙を増やして読解力をつけ、美しい字で美しい文章を書けるよう指導。どの教科も単に知識を詰め込むのではなく、どうしてそのようになるのかを考えさせ、学習の定着を図りながらバランスのとれた教育を展開しています。

また、一部の学年が対象だった「アフタースクール」や「シスターによるお話し会」を「学習会」同様全学年で行い、イタリ語とスイミングも追加。さらに全学年で礼法の授業を導入し、総合的な学習の時間には食育や伝統文化なども学びます。「そろばん(全学年)」や「パトントワリング(1・2年)」も希望者を募っており、様々なことを体験する中で持っている力を引き出し、将来自分がめざすものを見つけてほしいです。

学習した英語を使うため、昨年度から4・5年生を対象にネイティブスピーカーが中心となってサマーキャンプを始めていますが、今後は留学生や日本在住の外国人を学校に招いて交流するサマースクールと隔年で行う予定です。

中学・高等学校



中学校高等学校・校長 平沢真人

生きがいを見つけ、みんなと
喜びを分かち合えるように

本学院のモットーは「誠実」「隣人愛」「喜び」です。私はこれを具現化するために2つの目標を掲げました。1つ目は、人生の目的意識を持った女性の育成です。2つ目は厳しさの中に思いやりと温かさを兼ね備えた女性の育成です。誠実に生きるためには自分自身に対して厳しさを持つこと。また、自分を愛するように人を愛すること。そして人と共に生きる中で、心から生きがいを感じ、喜びを持って生きてほしいのです。

私は本学院の生徒たちが大好きです。どこに出しても自慢できる「生徒たち」ばかり。新入生の親睦会では、中学生は「ユニピアささやま」でパーベキュー、高校生は「箕面教学の森」でカレー作りを行いました。食後の片付けは教職員が指示しなくても生徒たちでみごとに済ませ、「なんてお行儀のよい生徒たちなんだろう」とあらためて感動しました。同時に各家庭で大切に育てられ、しっかりとつけられていることも分かりました。これからもみなさんと一緒に、どんなに小さなことでも生きている喜びを見つけ、分かち合っていきたいと思っています。

学院が取り組むボランティア活動

「生きがい」を見つけ
社会に貢献できるように

特別宗教活動

中学校高等学校では、本学院の特色であるキリスト教精神に基づき、自主的に自己の内面性を深め充実させていくことをめざしています。

そのため、毎週金曜日の放課後に、希



望者による特別宗教活動を実施。内容も「聖書に親しむ集い」や「ハンドベル」「聖歌隊」「ボランティア活動」「平和と人権学習会」と多岐にわたります。そして、これらの活動を通じて自分の使命である「生きがい」を発見した生徒たちが、国内外の多方面で活躍しています。

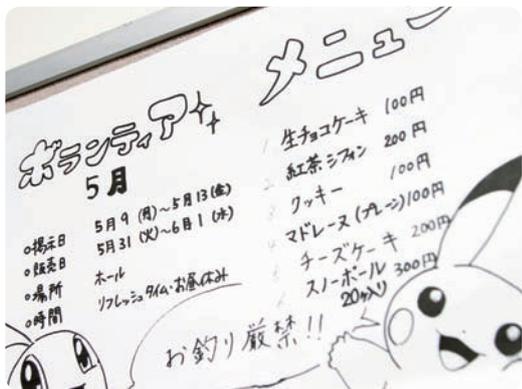
「今、自分にできること、しなければいけないこと」に向き合い、さまざまな繋がりの中で6年間かけて心の目が開かれるのです。

ボランティア活動

今、自分たちから始めよう
できることから始めよう

中高生25名が世界の動向を知り、今支援を必要としている人々に、何ができるかを常に考えながら活動しています。たとえば、障害者支援のお店「ふるる」で手作りされている焼き菓子の販売や、バザーのお手伝い、チャリティー・デーでの募金活動などがあり、古切手・エコキヤップの回収にも力を注いでいます。

生徒たちはいつも創立者の言葉「やさしい人であるには、エネルギーがなければなりません」を心にとめ、学院内にボランティアの輪が広がるようがんばっています。



「東日本大震災義援金の報告」

本学院では、東日本大震災の被災地への義援金として、小学校と中学校高等学校の有志生徒が集まり、震災後すぐの3月17日(木)と18日(金)に街頭で募金活動を行いました。その日は、季節外れの寒さで、雪が舞っていましたが、生徒たちは大きな声で一生懸命道行く人々に募金を訴え続けました。その結果、幼稚園と小学校での募金活動や中高ハンドベルの募金活動を含め、

学院全体で総額1,263,145円の義援金が集まり、全額、被災地での活動に役立てていただきました。

募金をしてくださった方々より、生徒たちへ、応援の言葉や手紙をいただき、一同心温まる経験をさせていただきました。これからもさまざまな形で支援活動に取り組んでいきたいと思っております。

かわいいお友だちが増えたよ



入園式
2011年4月12日(火)

これから毎日、
お兄さんやお姉さんと
楽しく遊ぼう！

桜が満開の4月12日(火)、今年も
かわいい新入園児をお迎えすること
ができました。新入園児たちはピカ
ピカの制服に身を包み、お父様やお
母様に手をひかれて、元氣よく幼
稚園の門をくぐってくれました。

先生方がもつともびつくりされた
のは、入園式の間、みんなが園長先生
のお話や担任の先生方の紹介を静

かに聞いてくれたことです。聖母被
昇天学院幼稚園の園児として、しっ
かりと自覚を持っているなんてすば
らしいですね！

さあ、これから新しい生活の始ま
りです。毎日、お兄さんやお姉さんた
ちと一緒に、楽しく過ごしましよ
うね。

教職員一同、「幼稚園が楽しい！」
と子どもたちが安心して過ごせる
環境をいっぱい作っていききたいと思
います。

プレスクール
2011年5月6日(金)

幼稚園全体で
子育て支援をします

5月6日(金)より2歳児対象の
「プレスクール」を開園。月・火・金の
3コース、合計29名のかわいい子ど
もたちをお迎えしました。

これは子育て支援の一貫として今
年度よりスタートしたもので、幼稚
園という共通の場所で楽しみや成
長の喜びを分かち合ったり、共感し
たりしながら、歩んでいきたいと思
っています。

内容は、製作、体操、モンテッソー
リのおしごと、給食など盛りだくさ
ん!! 初回は、母の日のプレゼント
として「首かざり」を作りました。

小学校 芽吹く季節に新しいお友だちが仲間入り



入学式
2011年4月8日(金)

6年生のお姉さんと
これからずっと一緒に

6年生のお姉さんに新しい名札
を付けてもらった新入生。全校生が
見守る中、お姉さんに手を引かれて
入学式会場に入り、担任の先生から
名前を呼ばれると、手を挙げて大き
な声で「はい」と返事ができました。
今日からいよいよ学校生活が始ま
ります。

1年生のお世話をする6年生の
準備は、5年生の時から始まってい

ます。今年は家庭科の時間にティッ
シユケースを作り、4月末に行われ
た新入生歓迎会でプレゼント。入学
式前日には、新6年生が心をこめて
1年生の教室を掃除しました。

緊張している1年生にとって、お
姉さんが一緒にいてくれるのはとて
も心強いようです。

保護者の方も当日は、6年生が優
しく世話をする姿を見て安心され
たようです。入学後も1年生の面倒
をよく見てくれ、1年生はお姉さん
のことが大好きになりました。

聖母月祈りの集い
2011年5月13日(金)

全人類の母である
マリア様をたたえる集い

5月はカトリックでは聖母マリア
の月。全人類の母であるマリア様に
感謝の思いを深めます。当日は、全
学年、正装(式服)で聖堂に集い、祈り
を捧げました。集いまでの約2週間、
自分で決めたことを続け、記録した
『実行カード』や一人一輪持ち寄って
作った花束、献金(事前に摂食ランチ
としておかず代を献金にまわし、お昼
ご飯をおにぎりにしました)を奉納
し、代表者が共同祈願を行いました。
今回の献金は箕面市への寄付や、
私立小学校連合会を通して震災の
ために使われる予定です。

大自然の中で親睦を深める



中1の親睦行事
2011年4月14日(木)

「ユニットピアささやま」で
一生の友だちに出会う

快晴のもと、中学1年生は2台のバスに分乗し、兵庫県丹波篠山にある『ユニットピアささやま』へ行き、バーベキューやオリエンテーリングを楽しみながらクラスの仲間や先生方との親睦を深めました。

最初は緊張していた生徒たちも、緑豊かな大自然の中で過ごすうちに、いつの間にか咲き誇る桜の花のような満開の笑顔になりました。笑顔の

花びらはあちらこちらに飛んで行き、気がつけば周りにもニコニコ顔の友だちがいっぱいました。
引率して下さった学院長シスター中山から「様々な出会いは神様がくださるプレゼントです」とのお話があり、思い出に残る1日となりました。

高1の親睦行事
2011年4月19日(火)

高校から入学した仲間
を交えてカレー作り

高校1年生は『箕面教学の森』に行きました。学校を出発し、途中箕面駅前で、グループごとに食材を購入、ハイキングをしながら現地に着きました。

メニューはオリジナルカレーです。生徒たちは薪で火を起し、ワイガヤガヤ楽しみながらおいしいカレーを作りました。後片付けも完璧で、「私は関係ないわ」という生徒はだれ一人いません。先生に指図される前にどんどん体を動かし、お鍋や食器類は使う前よりもピカピカになり、あっという間に終了しました。
食事後は、ドッジボールやバドミントン、ゲームで親睦を深め、高校から入学した仲間を交えて新しい友だち関係を結ぶことができた貴重な1日となりました。

イベント

これからの学院イベントスケジュール

	幼稚園	小学校	中学校高等学校
6月	6月18日(土)ハッピー★サタデー 6月23日(木)・30日(木)保育参観	6月25日(土)体験入学	6月25日(土)10:30~13:00オープンスクール
7月	7月5日(火)からだいっばいジャンプ 7月18日(月)~19日(火) 年長児お泊まり保育 7月21日(木)年中児デーキャンプ 7月23日(土)夏祭り	7月25日(月)学校説明会	7月19日(火)9:00~12:00合唱コンクール 会場:箕面市グリーンホール 7月30日(土)・31日(日) 箕面まつりボランティア参加(有志)
8月	8月27日(土)ハッピー★サタデー	8月22日(月)体験入学	
9月	9月3日(土) 入園説明会と体験保育	9月25日(日)運動会 9月29日(木)レシテーションコンテスト	9月7日(水)8:50~12:30外国語科スピーチコンテスト 9月17日(土)11:30~16:00学院祭
10月	10月15日(土)運動会 10月22日(土)チャリティ・デー 10月27日(木) ロザリオのマリアさま行列	10月22日(土)チャリティ・デー	10月22日(土)チャリティ・デー 10月29日(土)学校説明会
11月	11月1日(火)・7日(月)保育参観 11月15日(火)七五三	11月23日(水)学習発表会	11月12日(土)西日本フランス語コンクール 11月19日(土)入試体験会

聖母被昇天学院

My Favorite Assumption Spot

児童・生徒のお気に入りの場所を紹介するコーナー。
今回は高1・高2の生徒会執行部と中3の級長・副級長の
みなさんにお話をうかがいました。

私の
好きな

学校を訪れたら
立ち寄ってみて
とっておきの場所を
教えます！

食堂



毎日過ごす教室や
食堂は第2のお家！

四季折々の美しい自然と豊かな愛に
囲まれた本学院は、大きな大きな一つ
の家族。中学生、高校生ともに大の仲良
し姉妹として、毎日楽しい学院生活を
送っています。そして、生徒たちには学
院内にお気に入りの場所があります。
まず、もともと人気が高かったのは
食堂で、生徒たちはいつも10時35分～
55分のリフレッシュタイムやランチタ
イムで利用しています。
「食いしん坊の私はみんなが楽しく集
まれる食堂が大好き。日替わりランチ
も楽しみだけれど、今はフライドポテ
トやサラダなどのポテト料理にハマっ
ています」(尾山智恵さん・高1)

食堂



教室



「毎日約10種
類の焼ききたて
のパンが並ぶ
食堂がお気に
入り。なかで
も香ばしいの
に中身はふっ
くらとしたあ
まいメロンパ
ンがおすすめ。リフレッシュタイムに
ちようど焼き上がるので、いつもフカ
フカが食べられます」(重松ゆりのさ
ん・中3)
次に人気が高かったのはそれぞれ
の教室です。
「教室は私たちが1日中、居るところ
だし、休み時間や放課後は友だちとワ
イワイ騒げるのがいいですね。実は誕
生日に友だちから、赤くてかわいい野
菜「ラディッシュ」の苗をプレゼントさ
れ、窓際に置いて育てています」(中森
桜子さん・高1)
「教室には必ずだれかが居て、おしゃべ
りできるから大好きです。教室の後ろ
の掲示板に友だちの誕生日を書いた

心を癒やし、笑顔が
取り戻せる場所はここ！

一方学院の中心に位置する聖堂は、
生徒たちに「祈り」の意味を無言で教え
てくれる場所でもあります。
「幼稚園の頃からいろんな行事に聖堂
が使われているので、慣れ親しんだと
ころです。私にとって一番落ち着け、シ
スターのお話がいっぱい聞けました。
晴れた日は聖堂前の芝生に座って友だ
ちとおしゃべりするの楽しいです」
(神尾菜々さん・中3)
ほかに、中学校高等学校の各教室フ
ロアに完備されている談話コーナーは、
生徒たちにとって和みのスペース。音楽
室が大好きと答える生徒もいました。
「談話コーナーでは友だちとお弁当を食
べたり、違うクラスの友だちとおしゃべ
りをしたり。みんなのいる教室では話
しにくいことも、こなら親友だけに聞
いてもらえます」(有吉周子さん・中3)
「私は軽音楽部に所属しており、音楽室
が活動の場。初めて学院祭でライブを
したのもここでした。それに窓から緑
あふれる北摂の山々が一望できて心も

聖堂



校舎



安らぎます」(大下紗里奈さん・高2)
保護者の方も本学院にお越しの際
は、彼女たちのお気に入りの場所をぜ
ひのぞいてみてください。

今回
紹介してくれた
生徒たち



図書室の利用について



Assumption Library information

こんなステキな空間なら 読書が大好きになりそう

英語や心理学関係の本も満載
調べ学習ならおまかせ！

大阪平野を一望できる北館3階にある中学校高等学校の図書室は、生徒たちの心を癒やす憩いの場でもあります。480平方メートルを誇る、広々とした部屋に



は短期大学から受け継いだ本を含め、8万冊以上の膨大な蔵書でぎっしりと埋め尽くされています(書棚に並ぶのはそのうちの約6万5000冊)。「英語や心理学をはじめ、宗教教育・文学関係の本が充実。他分野

でも生徒の興味に添えられるようにしています。毎日やってきて1冊〜3冊借りて帰る生徒もおり、本当にうちの生徒は読書が大好きです。一人で机に向かえる場所もあり、放課後やってきて自習する生徒も多いですよ」と話すのは、図書館司書の塩野いずみ先生です。

今年度より保護者にも 図書室を開放し、好評

ここには調べ学習や総合的な学習の活動に適した大きな机も配置されており、落ち着いて資料を集めたり、学習内容をまとめたりにするにも格好の場となっています。

「生徒たちは学院祭やチャリティに出すモノを作る準備をはじめ、軽音楽部が楽譜を、放送部も活動やコンクールのテーマとなる素材探しによく利用しています。体育祭ではダンスの振り付けを考えるためにインターネットを使っているようです」と話すのは、今年度から図書室担当を務められている島田雪子先生です。

月1〜2回、おすすめや話題の本を紹介する「図書室便り」や「新着図書」の案内を発行。効率の良い読書方法なども掲載され、毎号生徒たちに大好評です。今年度より、中学校高等学校ともクラス

から1〜4人の図書室係を設けており、本の整理や貸し出しの手伝いをしたり、書評を書いたりして、図書室を利用する生徒とのパイプ役としての活動が始まっています。

室内をぐるりと見渡せば、もともと目につく壁に本院の先生方がすすめる書籍をコメント入りで紹介してあったり、調べ学習と教科の学習に関連した本を特集したりと、楽しく本を読むための工夫がいっぱいされています。

「今年度より、保護者の方々も利用していただけるようになりました。生徒同様、保護者を対象に含めた新刊案内も配布しています(塩野先生)。

お二人とも読書好きな生徒がどんどん増えることが楽しみです」と口をそろえます。



profile

島田雪子先生

1999年国語科の教師として本学院に赴任し、今年度より図書室担当に。小学校時代は、ドリトル先生シリーズが大好きでした。7年前、自宅にライブラリーを作る夢が実現したものの、毎年本が増えて手狭になってきたのが悩みの種です。



profile

塩野いずみ先生

2005年、聖母被昇天学院女子短期大学閉館と同時に中学校高等学校へ。子どもの頃は『泣いた赤鬼』や『ごんぎつね』を読んで号泣した思い出があります。私は情報収集型の読書なのでノンフィクションが好きなのですが、中高時代はぜひ文学作品をしっかりと読むことをおすすめします。





2011年4月1日(金)
教職員の集い挨拶より抜粋

「隣人愛」 共感・連帯が私たちに もたらすもの

みなさん、おはようございます。
新しい教職員の方々を迎え、このように学院の中心である聖堂で祈りをもって2011年度を始めることが出来ることを心から感謝し、嬉しく思います。

3月に起こった「東日本大震災」は日本に住む私たちのみならず、世界中の人々に大きな衝撃を与えました。亡くなられた多くの方々、霊魂が安らかにあらんことを、そして1日も早い被災者の方々の生活環境の改善と町々の復興を心より祈ります。また、原発で命の危険にさらされながらも使命感をもって働く人々、数多くの復興支援者の方々のために祈ります。世界各国の連帯の輪にも心から感謝します。

3月17日、18日と中高の生徒数人がヴィソラで大震災のための募金活動をしました。18日は小学生も参加しました。17日は特に小雪の舞う寒い日でした。今回の募金活動は生徒の自発的な行動でした。本学院の生徒たちだけでなく、全国の多くの人たちの中でこのような意識が高まり、自発的な支援への働きが多くなっていることは事実です。本院の生徒たちの心を動かしたのも、他の善意あるすべての人々と同じものと言えるでしょう。それは共感と連帯の行動です。

しかし、私は本学院の生徒たちの自発的な行動は、聖母被昇天の教育の日々変わらぬ特色のひとつであると考えています。それは、創立者は創立当初から、より良い社会を創造するために、人々の日常生活、特に貧しい人たちの日々の闘い、困難に生徒たちが関わることを、献身することを強く望んでいたからです。創立当初から小さなグループがあり、



そこでは生徒たちが助け合い、貧しい人々のために働き、献金したりしていました。このような社会への意識を高め、そのために働くよう生徒たちを教育することは当時の一般的な女子教育ではあまり大切だとは考えられていないことでした。創立者は、生徒たちがエゴイズムから解放され、日に日にキリストに心を開いていくこと、また、配慮を必要とする社会の人々に関心を持つよう強く願っていました。

このような観点から本学院で学ぶ子どもたちの善意の行いは教育の成果と言えるでしょう。キリストの価値観に基づいて、知性と心を成長させることが大切なのです。創立者は「私たちの教育では、どんな小さな領域においてもはつきりとした積極的な行動をとることが出来る人を育成することが求められる」と言っています。これが深く浸透して行けばいくほど、周りの人々に、明るい希望を与え、社会を変革していくこととなります。

この度の大災害は私たちに「隣人愛」をもって共感し、連帯するよい機会を与えてくれています。私たち一人ひとりがエゴイズムから解放され、心を開いて、配慮を必要とする社会の人々に小さな働きができますよう、またそのような働きを大切にする学院にこれからも成長していくことができるように祈ります。私は学院の発展への鍵はそこにあると考えています。

小さいながらも日本の聖母被昇天学院には誇るべき教育理念と伝統があることをしっかりと胸におさめ、母胎修道会は今年度も、みなさんと一緒に日々の教育活動に専念して参りたいと思っています。

